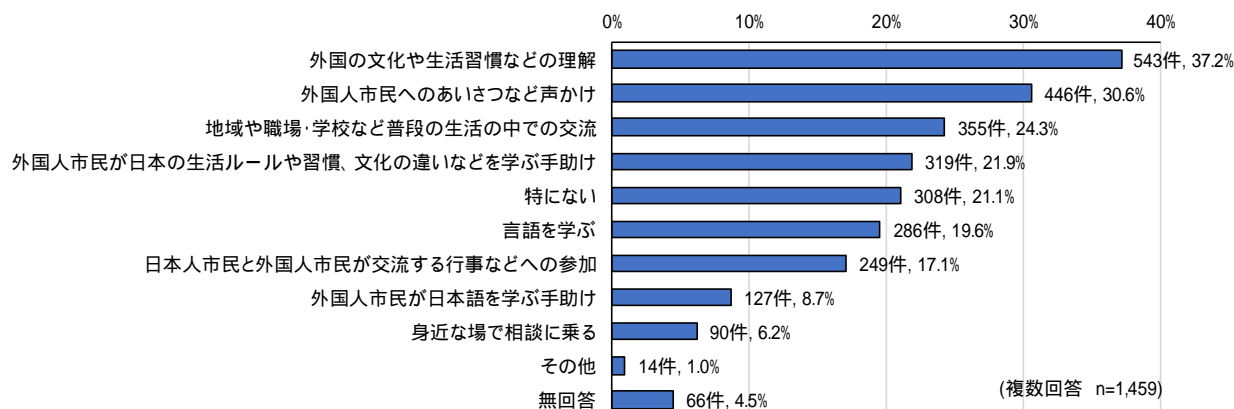


## (5) 多文化共生社会の実現のためにできること

問 26 多文化共生社会の実現のために、あなた自身はどのようなことができますか。( は3つまで)

多文化共生社会の実現のためにできることをたずねたところ、「外国の文化や生活習慣などの理解」(37.2%)が3割台で最も高く、次いで「外国人市民へのあいさつなど声かけ」(30.6%)が約3割、「地域や職場・学校など普段の生活の中での交流」(24.3%)、「外国人市民が日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどを学ぶ手助け」(21.9%)が2割台で続いている。なお「特にない」(21.1%)も2割強となっている。



<性別・性/年齢別・区別結果> (上位8項目)

性別で見ると、「特にない」では男性が女性より4.2ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、「外国の文化や生活習慣などの理解」では女性30歳未満、女性30～39歳が5割台、「地域や職場・学校など普段の生活の中での交流」では女性30～39歳が4割弱、「言語を学ぶ」では30歳未満の男女が4割台、「日本人市民と外国人市民が交流する行事などへの参加」は男性60～69歳が3割弱と高くなっている。

区別で見ると、緑区で「日本人市民と外国人市民が交流する行事などへの参加」が2割台となっている。

